

令和3年度 世羅町立世羅中学校教育研究計画

1 めざす生徒像

- 世羅で学んだことに誇りを持ち、胸を張ってふるさとを語れる生徒
- 豊かな感性で周りに関わり合い、励まし合いながら最後まで粘り強く取り組む生徒
- 共に活動し、共に喜びあい、共に感動し、共に高まり合う生徒

2 研究主題

「自ら学び、豊かに表現する生徒の育成」
～学び合い、関わり合う活動の工夫を通して～

3 主題設定の理由

本校では、これまで課題発見・課題解決学習の授業の中で、ICTを活用した導入や発問の工夫を行い、生徒の学習への意欲喚起を行ってきた。また、「思考・表現スキル」の活用や、小集団活動の充実を図ることで、生徒の思考力や表現力を高める取組を行ってきた。しかし、昨年度に実施した学力分析や意識調査アンケートの結果から、本校の生徒は、授業における教科の学習への意欲は高いものの、学びを深めるための思考力と、自分の考えを豊かに表現する力に課題があることが分かった。

これらの課題の改善を図るために、全教科・領域において、生徒の学習意欲をさらに高め、協働的な学習を通して、思考力・表現力の育成を行う必要があると考える。

4 研究仮説

学習への意欲を喚起する課題を設定し、協働的な学習の中で、生徒が必要な知識・技能を身に付けたり、考え方や伝え方を習得したりすれば、生徒は身に付けた学力を基に主体的に課題を発見・追求し、自分の考えを豊かに表現できるようになるであろう。

5 今年度の取組の重点

(1) 全員が課題をつかむための指導の工夫

「世羅中授業モデル」に基づいた授業づくりを踏まえ、授業の冒頭で示す「目標（めあて）」を具体化することで、学習への見通しをもたせ、学びに向かう力の育成を図る。

(2) 協働学習の充実のための工夫

ICTを活用し、生徒同士による発表や話し合い、協働での意見整理、協働制作を行う学習を通して、思考力・表現力の育成を図る。

(3) ねらいに沿った授業の振り返りの工夫

生徒が適用題を解いたり、教科の語句や用語を用いながら自分の言葉で授業の振り返りを行ったりすることで、学習内容の定着を図る。

6 検証の指標

- (1) 授業では、自分で考え、取り組んでいる生徒の肯定的評価の割合を85%以上
- (2) 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫している生徒の肯定的評価の割合を75%以上